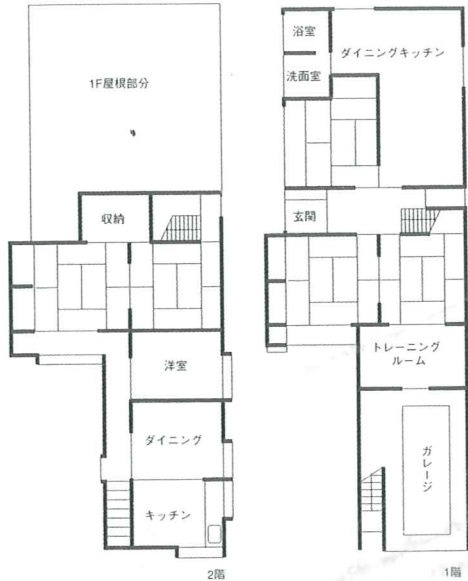


金属バット両親殺害事件が起きた家では、玄関横の応接間が父親の寝室として使われていた。父親と母親の夫婦関係は崩れており、母親の寝室は父親とは別。キッチンが家の奥にあり、ダイニングに背を向けて調理する格好となる。コミュニケーションが取りづらい配置だったと言える。玄関から廊下を通って階段を上がれば、すぐに2階の個室に行くこともできる。



新潟少女監禁事件が起きた住宅は手前にある「ガレージ」「トレーニングルーム」（いずれも1階）、「キッチン」「ダイニング」「洋室」（2階）が増築された。将来的な二世帯住宅を想定してのことだったという。この増築部分を容疑者が占有して使っていた。容疑者は玄関からではなく、ガレージ横の階段からも出入りができた。母親は2階の増築部分には入ることが許されず、監禁された少女の発見は遅れることになった。

屋など2〜3畳あれば十分だと考えています。

机とベッド、それとクローゼットがあれば事足りると思います。

6畳もあると、子どもにとって必要以上に心地いい空間ができてしまう可能性があります。

家族と接するより、部屋に籠っていた方が心地いいのです。そうなるとう家族と触れ合う時間は減っていき

ます。だから子ども専用の部屋は最低限ののだけ置ければよく、それ以外は家族とともに過ごすような間取りの方が家族の成長にも個人の成長にもよい影響を与え

ると思います。子どもにも個室を与えることが親の役割だと勘違いをしてきた!

—結果的に、人間が社会と断絶してしまうような間取りがどうしてできたしまったと思えますか。また最近

の住宅会社や消費者の間取りに対する認識は変わってきていると思えますが。

やはりハードとしての性能を追求してきたこと、消費者も含めてそこに目が行きやすかった点があると思います。

断熱性や気密性、耐震性、住宅設備のグレードなどへの関心が高く、家の間取りというソフトへの関心や知識は不足していたのだと思います。

戦後、「nLDK」の家づくりが一般的になりました。そして新築住宅を建てる親は、子どもに勉強部屋、つまり個室を与えることが大きな役割だと思ひこん

できました。そうすれば子どもも勉強ができて、優秀な学校に進学でき、さらに自立につながると思われていたのです。

家を建て、子どもに部屋を与えた時点で「親としての役割を果たすことができた」と思った人も少なく

なかったのではないのでしょうか。

でも、かつては考えられないような青少年による凶悪事件が起きるようになってきた。学業も優秀で「物静かだ

か何の問題もない」と思われてきた子が事件を引き起こしています。そこに世の中が疑問を持つようになってい

る。さらに、子どもの成長という面では、脳科学の発達も寄与していると思います。優秀な学校に入った子どもに勉強部屋がなかったなどという話があります。その理由を脳科学的にも説明する

ような動きが出ています。こうした点からも子どもに勉強部屋を与えるという考え方を根本から見直されることになってきたのでしよう。

でも、その認識はまだまだ浸透しているとは言えない。「家を建てたら家族でのコミュニケーションが減っ

した。

—そのご家族のお子さんは階段を使って一階と2階をぐるぐる行き来します。いわゆる遊びの要素を加えました。こうしたことも工夫の一つです。

一人ひとりのお客様を見て設計するという仕事は建築家ならではの強みだと思

います。標準的な間取りをつくるのは難しい時代になった

—これからの間取りを考えていく上で何が必要でしょうか。

立ち返ってみるべきは昔の日本の家屋や間取りだと思

っています。確かに、「田の字型」で襖や障子などで仕切られた部屋は、プライバシーが確保しづらい側面があったでしょう。物音が聞こえてしまったり、自分勝手にきままに暮らすこともできません

た。こんなことなら以前の狭い社宅の方がよかったです」といった話はまだまだあります。せっかく家族のために家をつくるのに、そんな思いをするなら悲しすぎます。

—来客があったり、人の家に行くことで間取りの違いに気づく

—横山さんは注文住宅の設計をしています。家族のコミュニケーションや「子育て」をテーマに仕事を依頼してくる人が多いのでしょうか。また実際にそうした住宅に住む人は「家族のコミュニケーションが増えた」といったことを実感できるものなのでしょうか。

—おかげ様で、家族の絆を深めたり、子どもの健全な発達を促す家づくりのご要望を多くいただきます。そうしたお客様は、来客

があったり、あるいは反対に他人のお宅に行ったりす

ても人の気配を感じたり、家族で折り合いをつけて暮らす場としては十分に機能して

いました。家族それぞれが、我慢するところは我慢して、譲り合うところは譲りあつて、折り合いをつける暮らし方を身につけていきました。

それは外の社会に出たときに家族以外の他人と付き合う上でも必要なスキルでした。

—すべてに対して「昔が良かった」というつもりはありません。

でも昔の日本の家屋や間取りには、現代の住まいが学ぶべき要素がたくさんあるように思

います。いまは平均的な家族像を描きだすのが難しいので、間取りもまた標準的なものをつくるのが難しい時代になっていると言

えるでしょう。だからこそ間取りの追求はまた追及しがいのある分野でありテーマであると思